

日本山岳写真協会 選抜展 「水の変幻」

日 時／平成16年12月10日(金)～17日(金)

会 場／コニカミノルタプラザギャラリーC

1	冬木立	①②③ 八甲田	荒谷 公隆
<p>広葉樹の葉は、春から夏は緑彩、秋は紅葉、そして、落葉して冬を迎える。樹木は、冬の厳しい季節の間、毎日のように降る雪や寒風に耐えて冬を越す。この季節、冬の木立を表現した。</p>			
2	湿原凍結	①②③ 尾瀬	飯島 一次
<p>湿原は不思議なところだ。本来植物の生育には適さないのだが、それ故の植物群落が生育する。だが、微妙なバランスで成り立っているとただに、周囲の環境変化に弱い。水と気温が関係しているのだが、原初的な景観に目を向けてみた。</p>			
3	雪稜変幻	①② 別山 ③ 穂高連峰	大石 高志
<p>水は温度により固体から気体まで、色々な形を見せてくれる。氷点下以下になると、雪、氷、霜等となり、山の景観を一変させる。また、一年で一番厳しい山となり、人を寄せ付けない季節となる。雪は稜線では色々な模様や形状で姿を変えている。このような雪が山で見せてくれる色々な姿を表現した。</p>			
4	飛沫氷・神秘の煌輝	① 茨城県・花園溪谷 ②③ 茨城県・袋田	小澤 正美
<p>厳冬の溪谷、巨岩の間を水しぶきを跳ね上げ、泡立ち水煙を上げる流れは、極寒の寒さで岩陰に幻想的、神秘的なすばらしいオブジェを造り上げる。形は色々、おもしろい。ダイヤ、ルビー、エメラルド・・・など、色とりどりの宝石のような煌き、輝いて飛沫氷の幻想的、神秘的な光景を呈していた。</p>			
5	雲の変幻・尾瀬ヶ原	①②③ 尾瀬	中澄 一之
<p>夜明けから昇陽までの幻想の刻。 場所は、尾瀬ヶ原・中田代。定点撮影ポイントの一つからの「雲三態」である。 しかし、期待に応えてくれる確率は極めて低い。</p>			
6	雲・輝きとともに	① 権現岳 ② 烏帽子岳 ③ 千枚岳	長澤 靖
<p>山における朝夕の光による演出は見事なものである。その光が山にあたる際の美しさも撮影の対象となるが、雲と光の共演も捨てがたい。下界では見上げるだけの雲も、山ではその位置が様々であると同時に、かたちも変幻自在である。</p>			
7	梅雨霧の中で	①②③ 富士山麓 畑尾山・角取山	名取 洋
<p>人間にとっては鬱陶しい梅雨。しかし、樹木にとっては恵みの季節である。暑い夏を前に体力と耐力を蓄える時期である。稜線での撮影が難しい梅雨こそ、森林撮影のチャンスである。撮影地は富士山麓・籠坂峠に近い畑尾山・角取山附近。梅雨霧にまもわれたブナ林は幽玄な雰囲気醸し出していた。</p>			
8	冬・光景	①②③ 奥多摩	細野 弘
<p>冷たく澄んだ空気の中で、水は形を変える。水の流れに光り射すとき、水は光とともに流れ、光る。静けさの中で降り続く雪、あるときは、もっごりと綿帽子の如き形を創る水の変幻。再び朝日を迎え、水を赤く染め光り輝く。明日はどんな形を見せてくれるだろうか。</p>			
9	雲の行くえ	①② 白馬岳 ③ 立山	前田 春好
<p>遥か遠い国から来て、夢と感動と勇気を与えてくれる雲よ。私は雲を見ていると心が和む。そして、いずこへと飛んで行く。雲よ有難う。</p>			
10	春の香りをのせて	①②③ 蒲田川	前羽 光雄
<p>水ぬるむ季節、桜開花の便り。しかし、北アルプス3,000メートルの稜線はまだ冬の装い。4月ともなれば、風雪後の晴れ間にも春の息吹が深い谷間に轟く。春の証、雪崩の爪跡。春の香りは、雪解けとともに下界へと駆け下る。</p>			
11	近畿の秘境・台高山脈	①②③ 台高山脈	三木 俊郎
<p>三重県と奈良県の県境に位置し、年間雨量が日本一の台高山脈。特に、三重県側の谷は、車ほどの大きな岩をも動かす水量で深く谷を削り、一種独特の溪谷美を見せる。稜線には伝説のある池が、妖しげに光りながら私を、迎えてくれる。</p>			
12	大地輝くとき	①②③ 美ヶ原	茂出木 協子
<p>凍てつく雪の大地は太陽の光との共演の中に一日が始まる。輝く光芒に踊る雪の妖精、凍てつく寂光の中に肩を寄せ合う樹々、雲間に輝く白銀の舞台。美ヶ原の大地に静かな時が流れてゆく。大地のドラマが終わるころ、白銀の世界は真紅に染まり幕が下りた。厳冬期の美しい風景に魅了される。</p>			